



ネイチャーなら

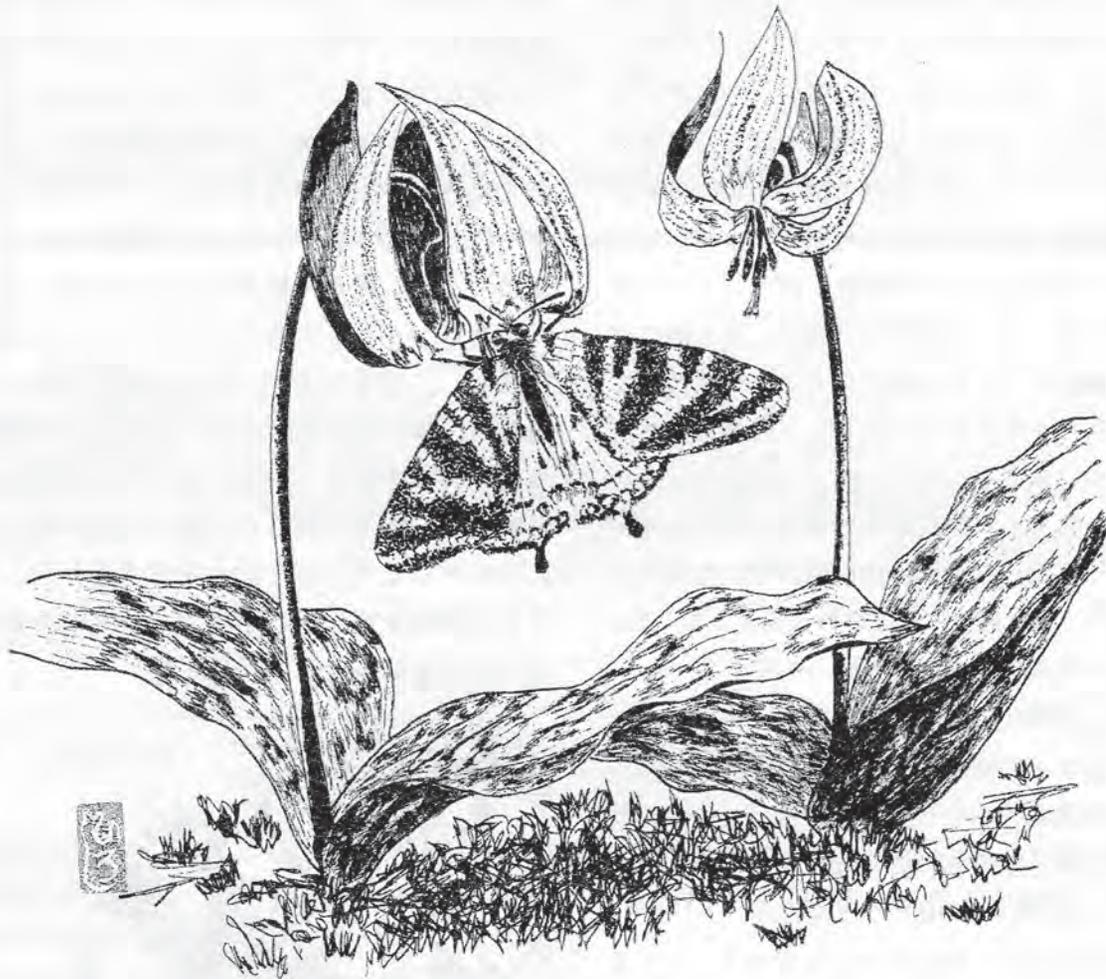
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2011年4月1日

4月号 第111号

奈良・人と自然の会

会長 阿部和生



- * リレー随筆「お元気ですか」
- * ならやまくレポート・里山自然観察>・「いたたまれない煙」
- * やってみよう!! しいたけつくり<子供の行事>
- * 自然俳句・癒しの散歩道
- * 虫こぶはアブラムシの憩の場! 「講座」⑥
- * 身近かで遠いカラスのお話・地域情報
- * 4・5月行事案内・・・「佐保路」「初瀬街道」「五条・栄山寺」
- * 今月の表紙・ペン画によせて

	1
2	3
	4
	5
	6
	7
8	10
	11

11月随筆 お元気ですか！

びっくりシルキースノーで

京都北山での一日



スノーシュー

柳田弥知子

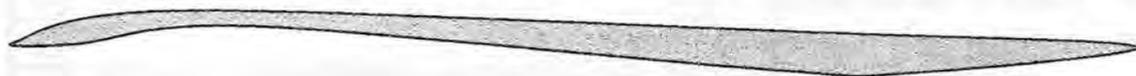
ほんと、いろんな偶然が重なって体験できたこの冬のハッピーなでき事でした。気づいた時は神々しいまでに輝く旭岳を前にしていました。ロープウェイ内のまわりの人々は、ほとんどスキー、スノーボー客、外国人もずいぶん多い。それ程この雪は素晴らしいのだろう。水分をほとんど含まず、シルキースノーといわれる位だから。姿見駅までの数分間、両サイドは雪化粧したトドマツ、エゾマツ、アカエゾマツが続き、降りたところは森林限界の地。そして極寒の世界だ。目の前には旭岳が。同行してくれた娘たちもスキーは知っていても、私がやりたいスノーシューは初めてだ。でも、すぐに楽しみ出した。ガイドさんに三人が続くというよりも、誰もがその新雪の中へふみ出したくなる雪景色なのだ。強い風が吹いた時にできたのだろうか、あちこちに雪の造形美が見られ、凍ってる所は太陽でキラキラ光ってる。

どこ見ても感嘆するのみ。噴気孔からモクモクと立ちのぼるガスが見える。まわりが真っ白なので、硫黄のその薄黄色もくっきり見える。「この深い積雪があるから、噴気孔のこんなそばまで来れるのですよ」と聞き、冬に来たことを喜ぶ。

痛い位冷たいが、晴れわたった空の下、どこまでも続くまわりの雪山を見渡し、しばし時を忘れました。午後からの巨木の森歩きも楽しく、オニグルミやカツラの冬芽にたくさん出会えました。

小田 進八郎

昨年(2009年)の11月、某女子大学の講義を受講する機会に恵まれた。人間と環境のあり方を考える講座で、その日は秘境八丁平での自然観察であった。15名の学生と教授陣のほかに、キノコや昆虫の専門家・一般参加者等約十名が加わった。高層湿原として知られる八丁平も全般的に乾燥化が進んでいるように見えたが、イヌブナ・コナラ・ミズナラ・カエデ類の紅葉は美しい。野鳥や昆虫との出会いはもちろん、専門家による案内のお陰で、多くのキノコを観察できたのが収穫だった。歌声や歓声に包まれた楽しい一日だったが、カシノナガキクイムシによる被害は痛ましく、対策も追いつかない状況であった。講義は、歩いている時には伝言ゲームで植物の名前や特徴を教え、紅葉の美しさには学生と共に感動し、樹木に残された熊の爪痕の前では熊になりきった学生達を記念撮影するなど、常に学生の興味を引き付ける内容で、今の教育現場の一端を垣間見た思いがした。



ならやまプロジェクト・レポート 23年3月

2月24日(木) 曇りのち雨 参加者33名

- ・里山 Gr が椎茸のホダ木の菌打ちを実施した。約150本のホダ木にドリルでホゾ穴をあけて菌駒を打ち込む。仕上がったホダ木は適所に積み上げて寒冷紗をかけ、養生する。
- ・農園 Gr はジャガイモ4種類の植付け。昨年の蕎麦畑跡へたつぷりとチップをまき、肥料入れなど土作りをした。今年こそはと意気込む皆さん。6月の豊かな実りを期待しよう。



菌打ちした椎茸ホダ木

3月3日(木) 晴 参加者 39名

- ・新管理地区の笹の刈払いがハイピッチで進む。刈り跡には、例によって大量の放棄ゴミ、これを全員で回収し分別する。整備された後の清々しさ。2度とこの場所にゴミを捨てる不心得者のないことを信じたい。
- ・C地区のならやま大通り沿いにレンギョウの苗60本を植付けて整備が一段落した。



整備が進む新管理地区

3月5日(土) 晴 参加者 58名 (内イベント参加者 28名)

- ・椎茸の菌打ちの公開イベントは、児童18名保護者10名の参加となる。里山 Gr を中心に念入りに準備されたスケジュールで、スムーズに運営。椎茸の解説、穴あけ、菌打ち、伏せ込みと一通りの手順を体験。午後は、遊びの広場での山遊び、椎茸狩りと里山は終日、子供達の声で湧き返っていた。(詳細は、別掲のレポートご参照ください)
- ・シニア大 水生生物科とビオトープのメンバーと共同で、ビオトープ生物の定期調査を実施した。

3月10日(木) 晴 臨時山の日 参加者 23名

- ・全員参加で、E1地区のJR線路沿いの里山整備を継続。松の巨大な枯れ木の伐倒作業など危険な作業はベテラン中心に慎重に進められる。回りでは枝を払う人、ササを刈る人など各々がやれる仕事を受け持って全体が円滑に進む。午後3時、一日の成果に充実感を味わいながら終了。

3月17日(木) 晴後雪 新ならやま地区のパトロール路整備開始 参加者32名

- ・今年で最後の寒気だろうか、雪交じりの天気。東北関東大地震の被害者、犠牲者の方々への思いを胸に活動開始。里山 Gr はE1地区の継続作業。農園 Gr は牛蒡の種まきと畝作りに精を出す。
- ・新ならやま林地約7haでは、前回からパトロール・ルート of 整備を開始した。笹や倒木の排除を刈り払い機3台、笹の搬出3名の体制で進める。3月中には作業でルートが完成する見込み。4月以降、ナラ枯れや生物の調査活動がスタートする。興味と関心のある方の参加を募ります。

(古川 祐司 記)

ならやま里山林自然観察レポート

ならやま里山林花だより

吉村 さつき

3月17日 暖かな日が続いていましたが、今日は雪がちらつき、植物達も戸惑っているようです。ホトケノザ（シソ科）、なんだか有難い名前ですが、茎を取り巻くようについた対生する葉を、仏様の蓮座に見立てて名付けられました。春の七草のホトケノザはタバコ（キク科）のことです。山では枯れ葉の陰にツルアリドウシの実を見つけました。果実は2個の合着した球形で赤く熟していました。頂には2つの花の痕が残っています。

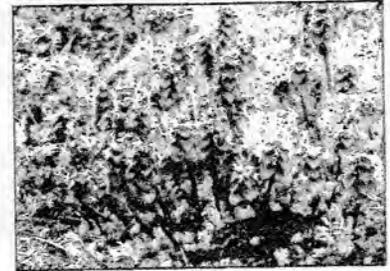
草花* ヨハコベ・ウシハコベ・オオイヌノフグリ

・ホトケノザ・タネツケバナ・ナズナ・オヘビイチゴ

・オランダミミナグサ・ヒメオドリコソウ

木の花* 紅梅・白梅・ヒサカキ・クロモジ・アセビ・ジンチョウゲ

花壇* カンザキハナナ・スイセン



ならやま鳥だより

小田 久美子

3月14日。菊川さんと二人で廻りました。暖かくて鳥が多いかと期待しましたが、12種21羽と淋しい観察日でした。

真竹：おいおい！！そこで燻ってる薪さんよ、もっと威勢よく燃えてくれよ、燻くてしようがないがな。

薪：すみませんね、できるもんならそうしたいんだけど、私もちょっと前までは立派な立木だったの。なぜ切られ玉切され惨めな姿にされたのかその理由が分からず残念で悔しい思いで一杯なの。

真竹：それは気の毒になあ。俺達は主人が全く竹林の手入れをしてくれないので込み合って窮屈で暗くてストレス一杯よ。

薪：それも悲しい事ね。私はまだまだ生木で乾燥してないからジュジュ泡吹いたり煙出して不満タラタラ中よ。

真竹：まあ風の奴にもしよっちゅう文句言っただけで全くの風来坊で俺達を散々振り回してどうしようもない。

薪：どうせ暖を取る人達もそう長居しないだろうから辛抱して。彼等も手弁当でこの里山を良くしようと頑張っておられるので、私も悔しい反面少しはお役に立て

てるのかなと思り返してるの。このベースキャンプでは真竹さんが北西の風を遮っているのが喜ばれているはずよ。

真竹：成るほどお互い少しはお役に立ってるんだ。よかったよかった、辛抱しよう。

「いたたまれない煙」



竹本雅昭

やってみよう！！しいたけづくり

3月5日青空いっぱいの中で今年も恒例の子供たちによる「しいたけづくり」を開催し、18人の元気な子供たちが参加しました。はじめに阿部会長から「みんなが食べる美味しいしいたけはこうして作るんだよ」「きのこは森の掃除屋さんだよ」とお話を聞いた後、さっそく黄色いヘルメットをかぶって山の中へしいたけの菌打ち作業に出発しました。



最初に1メートルに切ったコナラの原木に電気ドリルで菌を打つ穴を空けます。大人が手を添えてくれるものみんな電気ドリルをさわるのは初めてです。おっかなびっくりでしたが1列に6個から7個の穴を空けました。その後2センチほどのしいたけの種菌をそよごの木で作った木づちでトントンと埋め込みました。おみやげに持って帰る半分程度のコナラの原木にもトントンと種菌を植えました。来年にはしいたけが一杯できるのが楽しみです。



お昼は美味しい豚汁でお弁当を食べた後、今度は1年前、2年前、3年前に菌を植えたしいたけを観察しました。スーパーで袋に入ったしいたけしか見たことのない子供はコナラの原木にしいたけがニョキニョキ生えているのにびっくり、「みんなしいたけを1本ずつ取っていいよ」子供たちは喜んで、しいたけをコナラの原木から摘み取る初めての体験をしました。それから明るい森にするためにそよごの低木を1本ずつのこぎりで切りました。さあ最後は里山でしかできない遊びの体験です。

最初は木の間に太いロープを渡してのロープ渡りです。1メートル近い高さに子供たちは落ちないようにソロソロ、ユックリ、渡り切った子供たちの顔には満足した喜びがいっぱいでした。

次は木登り、7メートル上の木の枝に腰掛けてゆっくりと絶景を楽しんでいました。子供たちの元気な声が里山にひびきわたる楽しい一日でした。（文責 赤塚秀一）



自然俳句欄



去る2月22日。16人の侍たち、高畑町 そば処 老舗『観』に集う。
「のらの会」春の宴。自前の銘酒を酌み、談論風発、呵々大笑。尽きるなし。
帰路は奈良公園 片岡梅林を愛で、思わぬ名句が飛び出す。

川井 記

(順不同)

おだやかに梅の香動く浮見堂	弓場 厚次
春の庭に「のら」の人びとゆるゆると	”
円窓に一幅の景梅香る	鈴木 末一
酒も佳し梅見またよし浮見堂	”
どうだんの若芽の赤くほろ酔ふて	塩本 勝也
梅の香に肩を並べる老夫婦	”
梅の香の漂ふ日和春日かな	八木 順一
蒼空に梅花のうずむ浮見堂	”
高畑の山紫誘ふ雨水かな	古川 裕司
そばの宴男ばかりの梅見かな	”
春日遅々三蓋山の風の柔らかき	川井 秀夫
梅の香や宴のあとの酔心地	”

<癒しの散歩道>

春は迷える野兔のように

谷川 萬太郎

富士の嶺を優しく包む笠雲よ
季節を待つ野うさぎの足跡は
花の蕾が微かな声で囁いた
行先を雪の壁に阻まれても

架かりて今朝は空に浮かぶ雪帽子
冬の別れの春雨に出会えるだろか
春は目指す故郷の匂いを探し続け
足取り軽くやがて青空に歌声弾む

虫こぶは僕たちアブラムシ一家の憩いの場

—やさしい昆虫講座（第6話）—

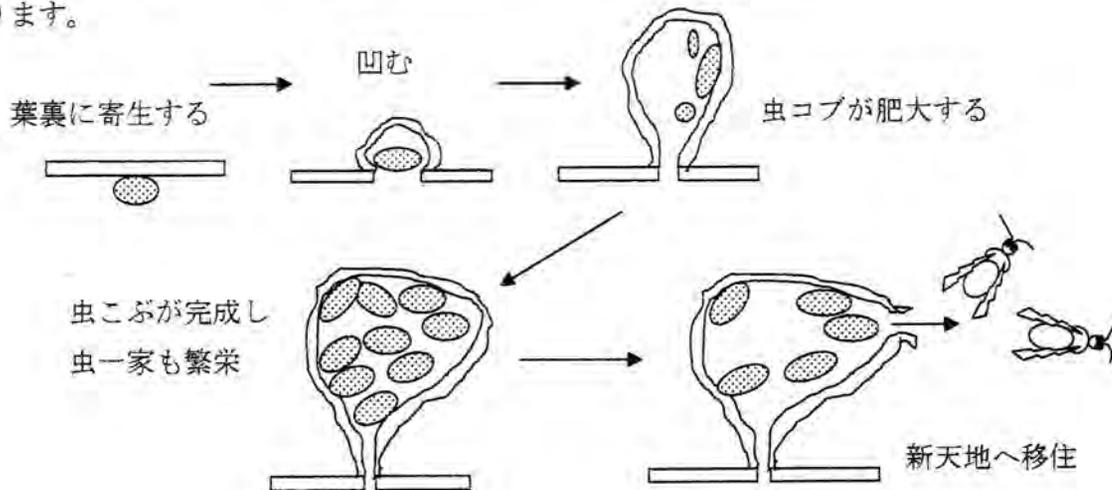
木村 裕

アブラムシは野菜や草花の葉から栄養分を横取りするばかりでなく、お世話になっている大家の葉を変形させてたいそう迷惑をかける不心得者もいます。

その代表がウメの葉につくムギワラギクオマルアブラムシです（長くて舌を噛みそうな名前）。春、ウメの新葉がちりちりに縮れているのはごく普通の現象で、縮葉病と信じている方が多いようですが、この虫が引き起こしたものです。しかし縮れた葉を開いても虫の姿が見つかりません。枝上で卵で冬越し、早春にふ化した幼虫はウメの芽の周りに集まり、葉が開くやいなやヒラリと飛び乗って汁を吸い始めます。その刺激によって葉が縮れて丸まるようです。硬くなった葉は好まずつねに新たに開いた葉を求めて親子ともども移動するので虫のいるのは先端の数枚のみで、残りの縮れ葉はもぬけの殻となっています。予防対策は新芽が膨らみ、葉が開こうとする寸前に殺虫剤を散布することです。新たに開いた新葉は薬剤に対して副作用（葉害）を生じやすいので、新葉展開期での薬剤散布は避けた方が無難です。

モモの葉も同じように縮れて黄色になりますが、これは縮葉病という病気でアブラムシのせいではありませんので、間違えないようにしてください。また、ときたま新葉が赤くなって縦に葉巻状に縮れていることがあります。これはアブラムシが犯人です。

キュウリ、スイカ、メロンなどの新葉もワタアブラムシの寄生を受けると葉は縮れて団子状になります。



ケヤキ、アキニレの葉には黄緑色または赤色のコブシ状の虫こぶがいっぱい付いていますがご存知ですか？ これもアブラムシが作ったものです。前者がケヤキフシアブラムシ、後者がオカボノクロアブラムシの虫こぶです。この虫こぶの中には数十匹の虫が住んでいて、6月頃には成虫となって穴をあけ、タケ、ササ、イネ科雑草の根に移住してゆきます。しかし秋には再びこれらの樹に戻ってきて芽の基部で卵の状態ですぐ冬を越し、翌春卵からふ化した幼虫は開いたばかりの新葉の裏面に寄生して汁を吸い始めます。するとその部分は虫を包み込むようにして凹んで葉の上に小さなコブができ、虫の増加につれてコブも大きくなります。

ヌルデの大きな虫コブもアブラムシが作ったもので、数百匹の虫が集団生活をしています。また、イスノキでも半球状の虫コブがごく普通につきます。この虫コブがあるからイスノキとわかるくらいです。

ならやまでは、ハシボソガラスもハシブトガラスも通年見られます。そのカラスを私たちはどれだけ知って知っているでしょう。今月は沢山あるカラスのお話の中から。

日本では神武天皇の八咫鳥、中国では太陽の中にいる三本足のカラスの話があります。カラスの話は東洋だけでなく西洋にも沢山あるようです。旧約聖書「ノアの大洪水」では、山が見えはじめた頃、ノアが最初に方舟から放った鳥はカラスでした。でもこのカラスは、ノアの期待に反して戻って来ませんでした。その次に放した

ハトが、放たれた夕方、オリーブの若葉のついた枝を咥えて戻って来たのが有名なモチーフになりました。船から鳥を放つのは、バビロンの航海術の一つで、放った鳥が戻らなければ陸地は近いと判断したようです。神学ではカラスが戻らなかった理由が二つあり、一つはアポロのいる太陽に向かって帰って行ったという説、もう一つはちょっと科学的で、カラスは洪水で溺れた人や動物の腐肉を食べていたというものです。カラスの持つスカベンジャーとしての性格を良く表しています。身近なカラスは話題にこと欠きません。



ちいきじょうほう

★2月26日、平城宮跡の大極殿のすぐ西側の茂みにヒクイナとクイナが1羽ずついました。もういないと思いますが・・・

・3月12日、春日大社参道でドラミングが響きましたので周りを探してみると、なんと目の前の大きな枯れ木のでっぺんで、アオゲラが盛んに木をつついていました。奈良公園でアオゲラは時々見られますが、こんな近くで肉眼で頭の赤いのでっぺんとして見えて、一般の参詣者の人たちもみんな上を見上げて楽しみました。(西谷)

★(斑鳩) 11日ハシボソガラスが送電線に木の枝をくわえて止まっていた。次の日その鉄塔の上の方(9階位)に2か所巣作りのわらなどが見えていました。周りに何もないので、風で飛んでしまうのかなかなか巣作りは進んでいません。19日10階に引っ越しし大きな巣が完成しつつありました。・3月15日ツバメ2羽初認。(昨年は19日でした) (勝田)



『自然教室チーム』 スタッフ募集 !!

自然教室チーム担当：倉田

4月から「小学校の校庭の自然観察会」等を担当する『自然教室チーム』が発足します。子供たちと一緒に「自然に親しむ」、「自然遊びをする」、「自然工作をする」という楽しい活動を目指しています。募集人員には特に制限はありません。申込み：



行事案内

※原則：前日午後7時前のNHK天気予報で、降水確率(午前)60%以上の場合は中止

※当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません

『ならやま里山林プロジェクト4月・5月の予定』

場所： 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR平城山駅下車徒歩10分）
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—

日時： 4月 7日（木） 活動日
4月10日（日） 菜の花祭り（ならコープとの協働）
4月14日（木） 活動日
4月21日（木） 活動日
4月28日（木） 活動日
4月30日（木） 雨天予備日
5月 5日（木） 活動日
5月12日（木） 活動日
5月21日（土） 活動日 教育実習生受入
5月26日（木） 活動日
5月31日（火） 雨天予備日



集合： 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通：①近鉄奈良駅 バス13乗場8：23発 高の原行（平日・土曜）

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8：32発（平日）・8：30発 JR奈良行（土曜）

①、②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品：・弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）

*環境保護のため、コップ・箸・碗などは各自でご持参下さい。

活動内容・里山整備、環境整備、花木植栽等の景観形成、植生調査、椎茸作り

・復元した田畑での「旬の野菜・健康野菜の有機栽培」、堆肥作り、土作り

・「市街地にある里山」を体験する各種イベント、学校授業「田圃の教室」

・広域里山パトロール（保全、ナラ枯れ点検、生物調査など）

連絡先： 古川祐司 ・鈴木 ・藤田秀憲

★ならやま・バードウォッチング

☆日 時：4月11日（月） 9：00集合

★集合場所：ならやま駐車場

☆小雨決行：判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。

★担当者：小田 ・菊川

4月例会「佐保路の深掘り歴史探訪」

昨年の佐紀路につづいて、今回は佐保路を歩きます。佐保路に残る歴史をじっくり深掘りして、寺社だけでなく旧家に残る古地図や文化財、地元に残る伝承、行事にも触れてみたいと思います。この機会以外ではめったにお目にかかれないものに出会えるかも……。1300年のタイムトリップ、どうぞご期待ください。

- 1、実施日 ; 4月19日(火)
 - 2、集合時間・場所 : 10時 近鉄奈良駅前広場・行基菩薩像前
 - 3、行程 : 近鉄奈良駅⇒佐保川⇒大仏鉄道大仏駅跡⇒興福院⇒瑞景寺⇒
常陸神社(大祭行事あり)⇒狭岡神社(佐保姫伝説)⇒海龍王寺⇒法華寺⇒
旧家お宝拝見(溝辺家、川辺家)⇒平城宮跡(阿弥陀浄土院・宇奈多理坐高御
魂神社)⇒(解散); 奈良ロイヤルホテルよりシャトル・バスあり
- 担当 : 鈴木() ・ 古川()



〈4月オプション行事〉東海自然歩道・自然観察会

～新緑の初瀬街道を行く(大神神社から長谷寺へ)～

日本最古と称される大神神社から三輪山沿いに初瀬街道を、大ケヤキの慈恩寺や野見宿禰ゆかりの十二柱神社などをめぐって、ぼたん祭の行われている花のみ寺長谷寺まで歩きます。23年度初めてのオプション行事に参加ください。

1. 実施日 : 4月27日(水)
2. 集合場所・時間: 「JR三輪駅」に10時10分に集合
3. 行程 : JR三輪駅→大神神社→金谷の石仏→海石榴市→玉列神社・慈恩寺→
白山神社→十二柱神社→長谷寺→近鉄長谷寺駅(15時頃解散予定)
4. 担当 : 森() ・ 藤田()

(参考1) 「JR三輪駅」への行きかた; 以下のJR桜井線(まほろば線)を利用下さい。

- JR奈良駅(9時39分発)→JR天理駅(9時54分発)→三輪駅(10時5分着)
- JR桜井駅(10時発)→三輪駅(10時3分着)

桜井駅・天理駅ではJRと近鉄の駅は隣接しています。

桜井線は列車本数が少ないのでご注意ください。

(参考2) 長谷寺: 「本尊十一面観音菩薩特別内拝」開催中(1000円: 記念品付き)

<5月の予定>

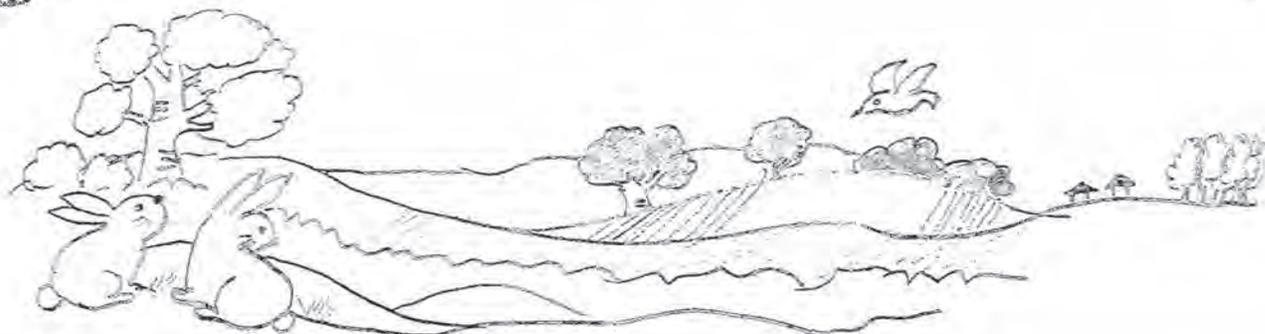
平成23年度 総会のお知らせ

☆日時 : 平成23年5月14日(土) 13:30~15:00

☆場所 : 奈良市中部公民館 奈良市上三条町23-4

☆プログラム : 総会
「ならやまフィールドの自然」紹介

※お問合せ先 事務局 寺田 孝



5月例会 五条・栄山寺と花の古寺を訪ねる

新緑の吉野川に沿って奇岩を眺めながら「水辺の広場」を経て、天平の香り高い「栄山寺」の八角円堂(国宝)を始め多数の文化財を持つ名刹を訪れ、さらに花の古寺「金剛寺」では菩提樹や白檀の観察の後、JR五条駅に向かいます。

日時 : 5月22日(日) 午前9時30分 集合

集合 : 近鉄・吉野線 福神駅前

・ 西大寺<橿原神宮前行急行>8:21…八木8:45…橿原神宮前8:50着(乗換)

・ 大阪阿倍野橋<吉野行急行>8:20…橿原神宮前8:58発…福神9:25着

行程 : 近鉄福神駅~阿田明神社~西阿田~水辺の広場~栄山寺~金剛寺~JR五条駅

担当 : 弓場 厚次

豊島 すみ子

平成23年3月度幹事会報告

日時 平成23年3月8日(火) 18:00・20:00 司会：豊島 記録：板橋

場所 奈良女性センター 出席者 幹事 17名

- (1) 現在の会員数 137名(会員登録切り替え期のため変動あり)
- (2) 2月10日 農園勉強会(有機農法とJAS規格) 35名の会員が参加
- (3) 3月2日 パソコン講習会 11名の会員が参加
- (4) 4月5日の公開イベント「しいたけ祭り」こども18名、保護者10名、スタッフ30名が参加。
しいたけ菌打ちの他、遊びの広場で楽しんでいただいた。
- (5) ならやまP 2月参加者 5回の活動で156名が参加(去年は131名)
- (6) 助成金関係 瀬戸内オリーブ基金、奈良県たかとり基金、ならコープ 等取組中
- (7) 5月例会 五条・栄山寺と花の古寺をたずねるは5月22日(日曜) 6月例会 初夏の矢田丘陵を歩くは6月15日(木)と決定
- (8) 定期総会 5月14日(土)は開催時間18:30・そのあと菊川さんの昆虫の話がある。

表紙のペン画によせて

境 寛

4年前の3月福井県鯖江市の郊外にカタクリの群落を見に行きました。丘の斜面一面のカタクリに大いに満足をして、カメラを向けていたところ、ひらひらと小型のアゲハチョウが飛んできました。黄色と黒のだんだら模様に、後ろの方にだいたい色の紋を付けています。

春の女王「ギフチョウ」に興奮、シャッターチャンスとばかりに夢中で撮ったのがこの一枚です。新聞社に投稿しようと、ふと新聞を見ると1日遅く福井の地元紙に春一番のカタクリとギフチョウの写真が出ていました。

カタクリ ユリ科カタクリ属

花言葉「気がかり」

ヨーロッパのカタクリは赤いので、属名 *Erythronium* は「赤い」に由来する。

カタクリの古名は「カタカゴ(堅香子)」で、大伴家持が越中の国司として、北陸に赴いた折、「もののふの 八十乙女らが 汲みまがふ 寺井の上の 堅香子の花」(万葉集巻18)と詠まれている。

編集後記：*この度の東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈りいたします。*会員鈴木末一氏の原案による、新しい会報誌のロゴが決定し、本号より採用しました。今後も会員の皆さんによってますます充実した会報誌になることを期待しております。*会報発送作業・編集会議日：5月号の作業は4月30日(土)午前9時から「西奈良ボランティアセンター」で行います。ご協力お願いいたします。

編集担当：勝田 均

奈良・人と自然の会：

平成23年度『例会』年間計画

2011. 3. 24.

実施日	タイトル	テーマ	備考	担当
4月19日(火)	佐保跡の深堀り歴史探訪	佐保路の歴史を「じっくり」と探究。 旧家秘蔵の古地図や隠れた史実に触れる。		古川・鈴木
5月22日(日)	五条・栄山寺と花の古寺を訪ねる	新緑の吉野川に沿って奇岩を眺めて五条へ。 「栄山寺」から花の寺「金剛寺」を巡る。		弓場・豊島
6月15日(水)	初夏の矢田丘陵を歩く	アジサイの矢田寺と 豊かな自然の矢田丘陵を楽しむ。		倉田・森
7月 日()	府民の森・なるかわ園地	役行者ゆかりの干光寺を経て「なるかわ園地」。 清滝石仏群を愛で、風そよぐ大原山頂で深呼吸。		木村・豊島
8月 日()	* 森林総合研究所関西西支所(養)	(京都市伏見区桃山町永井久太郎68) 天理ダムより龍玉山・長岳寺へ		
9月 日()	大和原原が眼下に広がる「龍玉山」	「歴史と健康の道」を歩く		寺田・塩本
10月 日()	創立10周年記念事業 木曾路を歩く (一泊研修)	木曾・赤沢自然休養林と開田高原を訪ねる。		川井・藤田
11月 日()	京都植物園	秋の植物観察と紅葉を楽しむ。		西谷・平岡
12月 日()	頭塔と高円山紅葉を訪ねる 「忘年会」	重要文化財「頭塔」、高円山の火床、 春日山の紅葉を巡ります。【忘年会】		勝田・林 寺田
1月 日()	創立10周年記念新嘗醸造会			阿部・藤田
2月 日()	室池園地探訪会	元あった池をそのまま活かした自然豊かな公園。 カモや冬鳥と冬芽の観察を楽しみましょう。		小田・勝田
3月 日()	和邨の里を巡る	古代文化と歌人・柿本人麻呂のルーツを探る。		川井・水本

オブション行事 平成23年度 東海自然歩道 自然観察会

実施日	タイトル	テーマ	備考	担当
4月27日(水)	初瀬街道 (三輪から長谷寺)	大神社から長谷寺へ 新緑の初瀬・伊勢街道を歩く。		森・藤田
6月 日()	柳生街道 (柳生から忍辱山・円成寺)	柳生から忍辱山・円成寺へ 刺藪が歩んだ道を探る。		板橋・菊川
9月 日()	額井岳山麓(横原・五立橋から室生口)	大和富士：額井岳の山麓・戒長寺から 室生湖畔を巡り大野寺へ初秋を楽しむ。		川井・阿部
11月 日()	普賢高原 (太良路から中太郎生)	ススキが輝く晩秋の 普賢高原から中太郎生へ向う。	22年度雨天中止・復活	境・木村